

田んぼの中は自然の宝庫  
恵まれた大野の湧水に稲穂が揺れる

# お米作りを通して 自然と関わり、 食を学ぶ

子どもたちにお米作りを体験させたい！  
そんな思いを込めた「米っ人くらぶ」の田んぼが収穫期を迎えました。  
失われつつある地域コミュニティの再生を目指して、  
平成13年に発足した「米っ人くらぶ」の2度目の実りの秋です。  
お米作りに参加した子どもたちと、指導してきた「米っ人くらぶ」の会長・副会長、  
参加をサポートしたIJC市川ジュニアリーダーサークルのリーダーを交え、  
稲刈りを終えた田んぼでお米作り体験談を語っていただきました。



つ一つと雌しべと雄しべがあって、ちやんと受粉するんです。お米ってすごいなあと思いました。

**千葉** それはいい観察ができましたね。石井さんはジュニアリーダーの立場で

子どもたちとお米作りをしたのですね。**石井** はじめは私もただの参加者でした。お米作りは初体験なので、まず子どもたちと一緒に覚えて、少し余裕ができてから子どもたちの前に立って危険の

## 生き生きと、 自然の中で楽しく学ぶ 子どもたち

**千葉** いま稲作は機械化されていますが、「米っ人くらぶ」では昔ながらのお米作りを経験しました。この半年を振り返り、お米作りを通して感じたこ

ないようにとやってきました。

**千葉** 子どもは覚えるのが早いですね。飲み込みがよくて、教えると器用にやるのには驚きます。**石井** 私たちより早いです。楽しみながら覚えてくれてびっくりです。

**千葉** 自然の中の体験はいろいろな勉強になりますね。田んぼの中にいろいろな生き物がいたでしょう。

**脇島** イナゴとかバッタ、カマキリやヘビもいました。用水路ではカワセミも見ました。

**工藤** 血を吸うヒルも…。**石井** 田植えの時に、(両手で大きさを示しながら)このくらい大きなウシガエルがいました。

**大澤** 去年はアカガエルがたくさんいましたね、料理しましたよ(笑)。焼いて食べたんですが、子どもたちも、結構食べていました。

**本当に手をかけないと  
おいしいお米は  
作れない**  
**千葉** ところで、草取りも大変な作業ですね。**大澤** 大変です。田んぼの中はどうしても残ってしまいました。土手だけは草取りをしないと田んぼに入れないのでやりましたが…。これは来年に向けて



菅野小学校  
6年生  
工藤千佳さん  
Chika Kudo



大洲小学校  
5年生  
脇島航介さん  
Kousuke Wakishima



IJC市川ジュニアリーダー  
サークルリーダー  
石井恵美さん  
Megumi Ishii



市川米っ人くらぶ  
会長  
大澤徳一さん  
Tokuichi Osawa



市川米っ人くらぶ  
副会長  
古川 昇さん  
Noboru Furukawa



聞き手  
千葉光行  
市川市長  
Mitsuyuki Chiba



とは何でしょう。**脇島** 僕は田植えが一番大変でした。腰が痛くて筋肉痛になりました。**千葉** あはは。スポーツとは違う筋肉を使うものね。**工藤** 私は家でも苗を育てたのですが、稲の花は白くてとても小さく、全然花らしくないんですけど、その小さな一



鎌を持つ手も次第になれて、ザクザクといリズムで刈り取っていく。

ての反省点です。**古川** 通常は2回やるんですよ。中耕・除去といって草取りには二つの目的があります。一つは雑草を取り除くこと。二つ目は、他の作物もそうですが途中で鎌を入れますよね。手で稲株の周りをきれいにしたり、人が歩いただけでも稲の根が切れて新しい根が出てくるんです。そうすると新しい株が増えるんですよ。いずれにしろ、お米の字を分解すると八十八というように、八十八の間隔がかかると思いますが、実際はそれ以上かかりますよ。**千葉** お米を作る作業を考えると、とても苦勞をしてご飯が出来ていることに気がきます。ただ食べているだけ